



## 『夢に向かって』

高知県

土佐町少年剣道

中学3年生

森

舞香

私は、小学1年生のときに剣道を始めました。小学生のころは、これといった目標や夢はありませんでしたが、とにかく小学校を卒業するまでは、剣道を続けようと思っていました。

私は、中学校になって少し迷いましたが、剣道部に入部しました。そのときの先輩たちは、全中を目標に剣道を頑張っていました。先輩たちが、県大会の決勝で敗れたとき、私も全中に行きたいと思うようになりました。

中学校の練習は、少年剣道のときよりとてきつくて、なかなかついていくことができませんでした。ときには体調を崩し、くじけそうになるときもありました。そんなとき、家族が支えてくれてなんとか乗り切ることができました。2年生になると、体調を崩すこともなくなり、後輩の入部で責任感も強くなりました。3年生になり、私は剣道部の主将になり、チームをまとめることや他にもしなければいけないことが多くなりました。でも、やる以上は、しっかりやろうと思いました。また、全中への夢は、「全中にいきたい。」から、「全中にいく。」に変わっていました。今年の中中は地元高知で開催されるので、その気持ちはより強いものになりました。そのためには、きつい練習も自分から進んでするようになりました。毎日の練習や一つ一つの大会を大切に、部員全員同じ気持ちで頑張りました。

全中予選の県体当日、私はこのチームだったら必ず行けると信じていました。しかし、結果は一回戦敗退、勝ちたいという気持ちばかりが先行して、みんな自分の剣道ができずに敗れてしまいました。「力不足。もっと練習をしておけばよかった。」という思いでいっぱいでした。

全中には出場はできませんでしたが、私たちは、地元開催の全中のスタッフとして、県外の選手のおもてなしを一生懸命し、喜んでいただけたことは、本当によかったと思います。

全中の後、本当の最後の大会である秋季大会があります。私たちは、気持ちを切り替え後悔をしないよう、真剣に練習に取り組みました。秋季大会の日、県体の時とは違い、全員が試合に集中できました。自分でも今までで一番気持ちが入っていました。結果は、決勝で0対1、一本差で敗れました。その一本は私が取られたもので、正直あまり喜べませんでした。でも両親に、

「よかったよ。」

と、声をかけてもらったとき、涙があふれてきました。チームの仲間や先生、保護者の方々から声をかけてもらって、私の悔しさは、いつの間にか満足感に変わっていました。

私の夢はかないませんでした。その夢に向かって努力したことは、決して無駄ではなかったと思います。これまで何度も、つらいこと、悲しいこと、悔しいことがありました。剣道をやめてしまいたいときもありました。でもそんな時、両親や仲間、先生や地域の方が支え励ましてくれて、私は剣道を続けていられることができ、今の自分があると思います。

私は、こうした方々への感謝を忘れず、また、試合で負けた悔しさも忘れることなく、次の目標に向かって頑張っていきたいと思います。